

認知症の人の家族介護者 実態調査結果

—概要版—



認知症になっても住みよいまちづくりプロジェクトでは、東京都町田市において、家族介護者の方が健康で安心して地域社会で過ごせるように、家族介護者の方、一般住民、支援者、研究者がいっしょに必要な支援を話し合い、事業の企画、実施、評価までを協働する当事者参加型アクションリサーチを進めています。本パンフレットは、2018年度11月～1月に実施した基礎調査の主な結果をまとめたものです。

2019年12月

認知症になっても住みよいまちづくりプロジェクト

科学研究費 18K10623

当事者参加型アクションリサーチによる認知症の人と家族介護者にやさしい共生社会創造

目 次

1. 認知症になっても認知症になっても住みよいまちづくりプロジェクト 「認知症の人の家族介護者実態調査」概要	1
2. 調査結果	
(1) 基本属性:家族介護者	2
(2) 基本属性:被介護者(認知症の人)	3
(3) 認知症の人の症状・サービス利用状況	4
(4) 介護者の介護状況	5
(5) 介護者に対するサポート・理解	6
(6) 介護負担感と必要な介護者支援	7
3. Web サイトのご案内	9

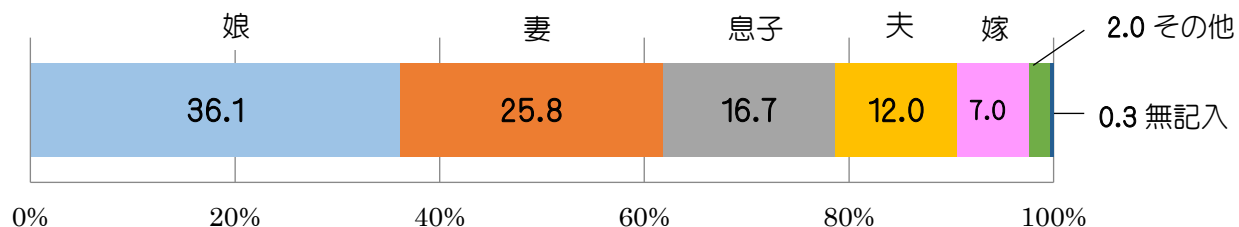
認知症になっても住みよいまちづくりプロジェクト 「認知症の人の家族介護者実態調査」概要

- **研究プロジェクトの目的**：認知症の人の家族介護者が健康で安心して地域社会で過ごせるように、家族介護者、一般住民、支援者、研究者がいっしょに必要な支援を話し合い、事業の企画、実施、評価までを協働することを通して、家族介護の当事者（家族介護者）と地域住民・専門家との協働による認知症の人とその家族にやさしい地域社会づくりを目指しています。
- **プロジェクトのメンバー**
 - 佐藤美由紀：佐久大学看護学部・教授
 - 芳賀 博：桜美林大学大学院老年学研究科・教授
 - 長田 久雄：桜美林大学大学院老年学研究科・教授
 - 安齋紗保理：城西国際大学福祉総合学部・助教
 - 川口 桂嗣：佐久大学看護学部・助教

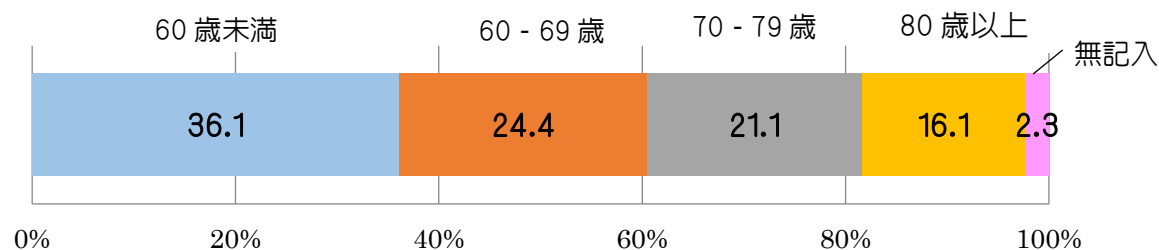
 - 井上美恵子：町田市認知症友の会・会長
 - 佐藤 和彦：町田市認知症友の会
 - 松本 礼子：町田市認知症友の会
 - 山田 賢三：町田市認知症友の会
- **調査の目的**：町田市において認知症友の会を中心とした家族介護の当事者・地域住民・専門職の協働による認知症の人の家族介護者支援を実施するため、認知症の方の家族介護の実態と課題を明らかにします。
- **対象者**：町田市に居住している認知症の人を介護しているご家族
 - *在宅している認知症の人を介護されているご家族
 - *入院・入所後3ヶ月未満の認知症の方を在宅で看護されていたご家族
- **配票**：町田市内の高齢者支援センター12カ所、居宅介護支援事業所67カ所、認知症疾患センター1カ所の全80カ所に868部の調査票を配布依頼
- **調査期間**：2018年11月17日～2019年1月末
- **回収集**：303部（34.9%）
- **有効回答数**：299部（34.4%）

基本属性：家族介護者

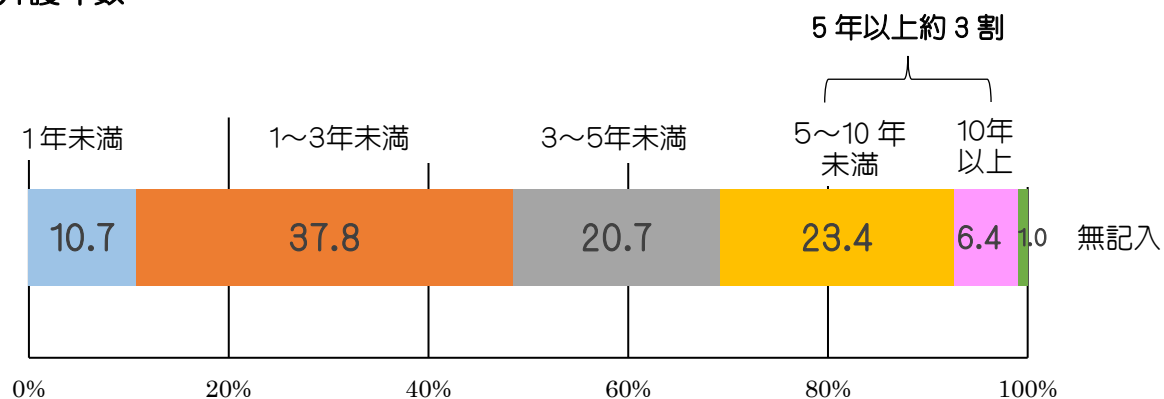
●介護者の続柄



●介護者の年齢



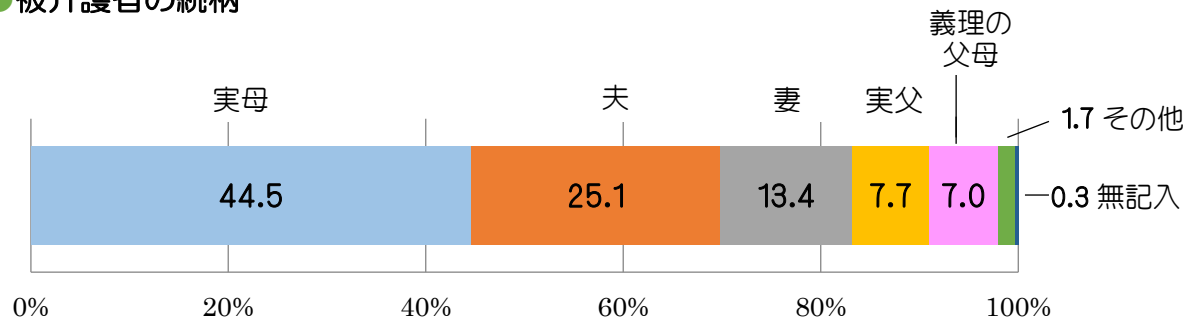
●介護年数



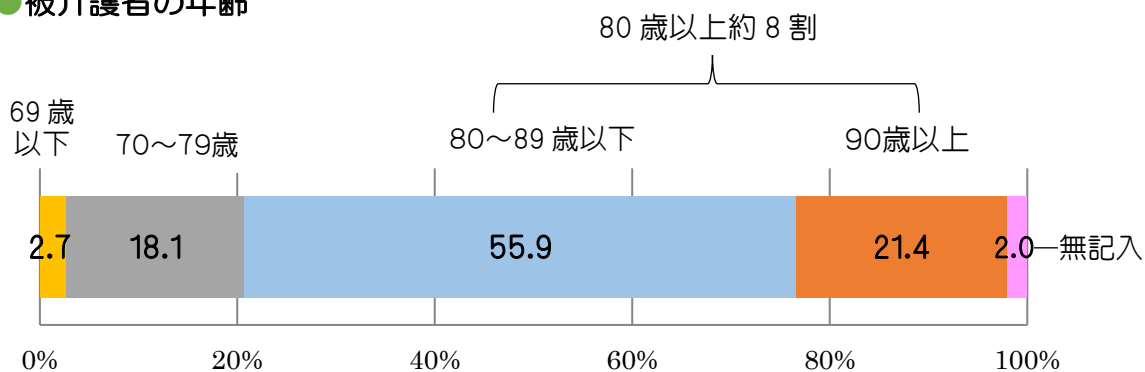
- 介護者は娘（36.1%）、妻（25.8%）が多く、両者で約6割を占めた。
- 介護者の年齢は60歳未満が約4割であった。80歳以上の介護者は2割弱も見られた。
- 介護者10人中3人が5年以上介護をしており、介護が長期化していることが推察された。

基本属性：被介護者（認知症の人）

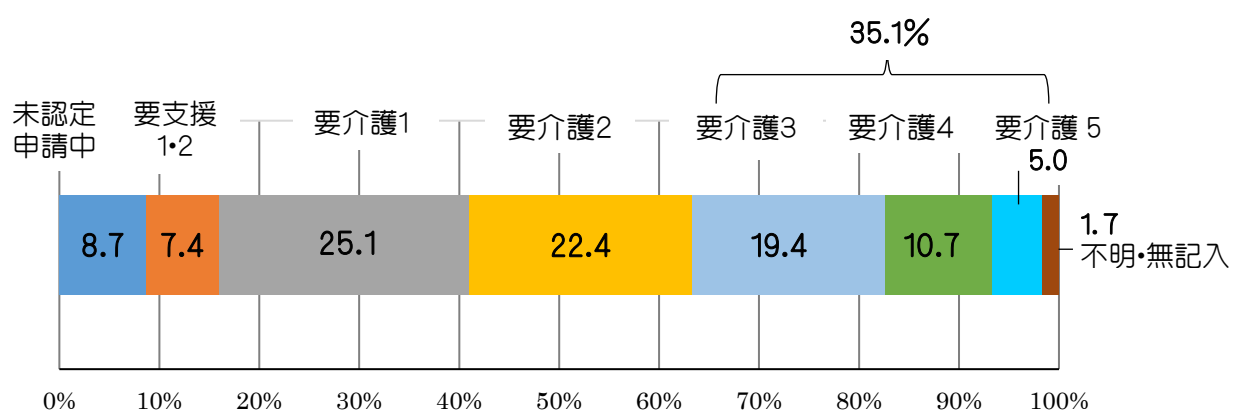
●被介護者の続柄



●被介護者の年齢



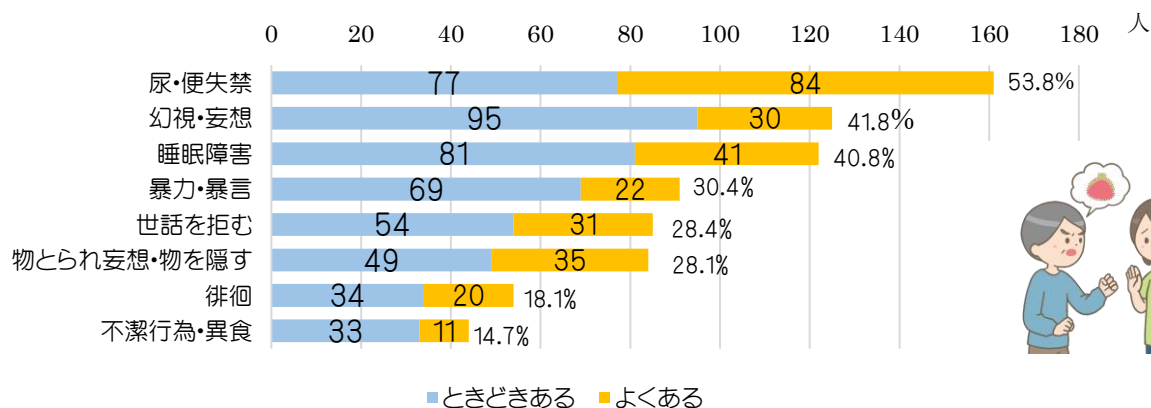
●介護認定の状況



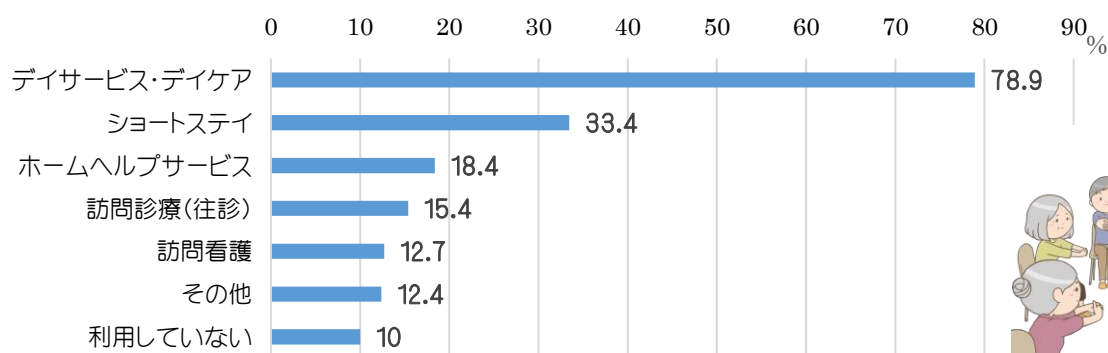
- 介護を受けている認知症の人は実母（44.5%）、夫（25.1%）が多かった。
- 介護を受けている認知症の人の年齢は 10 人中 8 人が 80 歳以上と高齢であった。
- 9 割の人が介護認定を受けていた。10 人中 3.5 人は要介護 3 以上であり、介護負担が大きいことが推測される。

認知症の人の症状・サービス利用状況

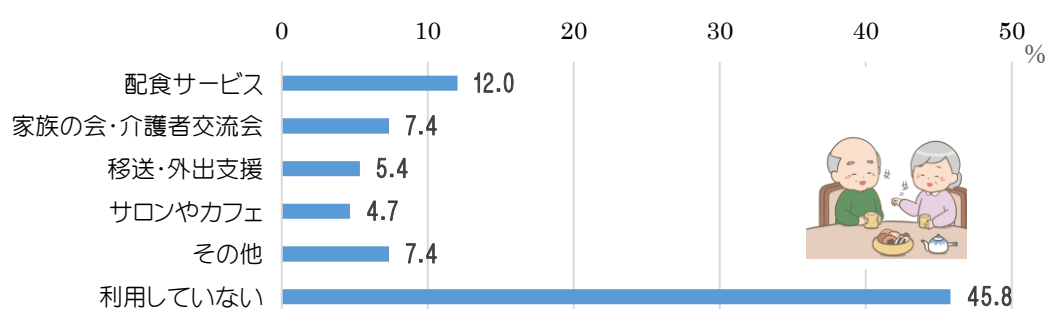
● 行動・心理症状など（複数回答）



● 1 年間に利用した介護保険サービス（複数回答）



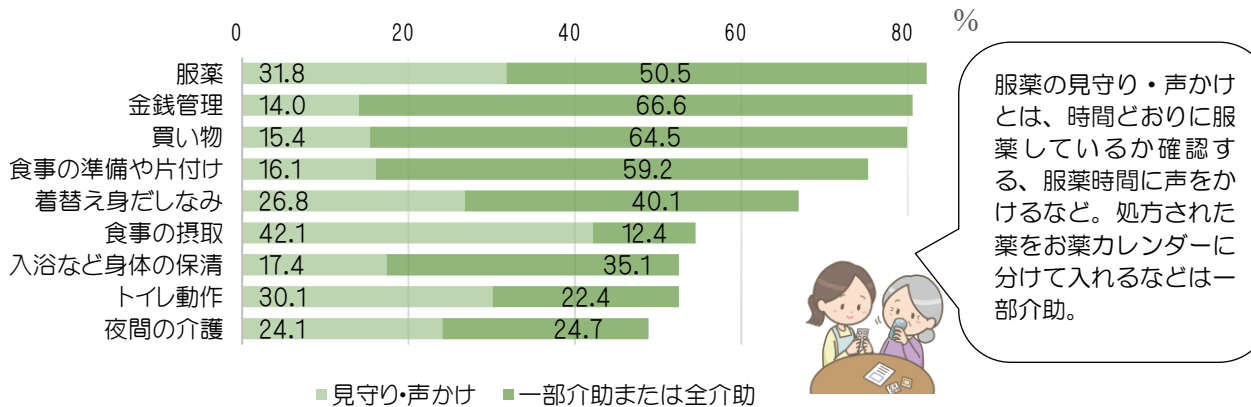
● 1 年間に利用した介護保険以外のサービス（複数回答）



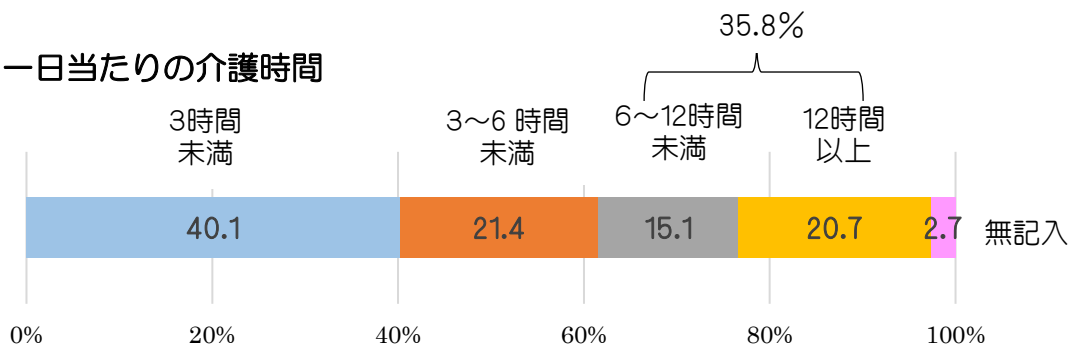
- 認知症の人の約半数が尿・便失禁があり、約 4 割が幻視・妄想、睡眠障害、約 3 割が暴力・暴言、世話を拒むといった症状があり、介護者の心身の負担が大きいことが推察された。
- 認知症の人の 9 割は介護保険サービスを受けていた。10 人中 8 人が通所系サービスを利用しており、介護者のレスパイト(休息)につながっていることが推察された。ショートステイは 10 人中 3 人しか利用しておらず、利用が少ない原因を明らかにし、利用促進をはかる必要がある。
- 約半数が介護保険以外のサービスを利用していなかった。介護者交流会などの交流系サービス利用は 1 割に満たず、家族介護者の孤独感を高める要因となっている可能性がある。

介護者の介護状況

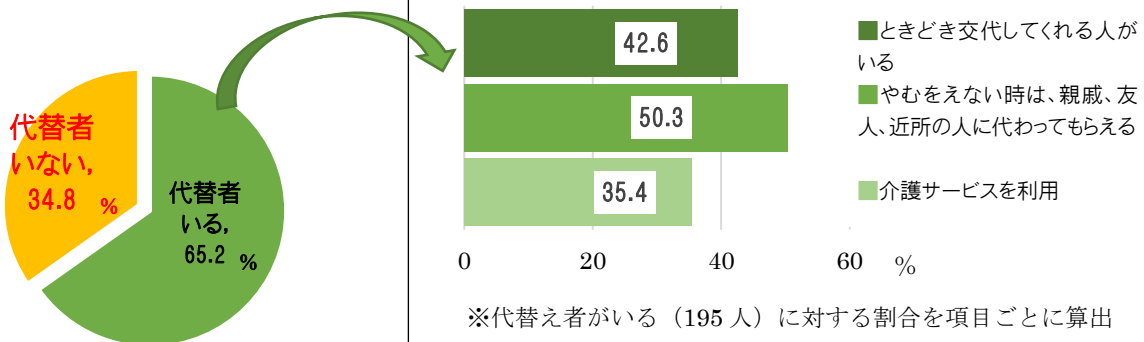
●行っている介護



●一日当たりの介護時間



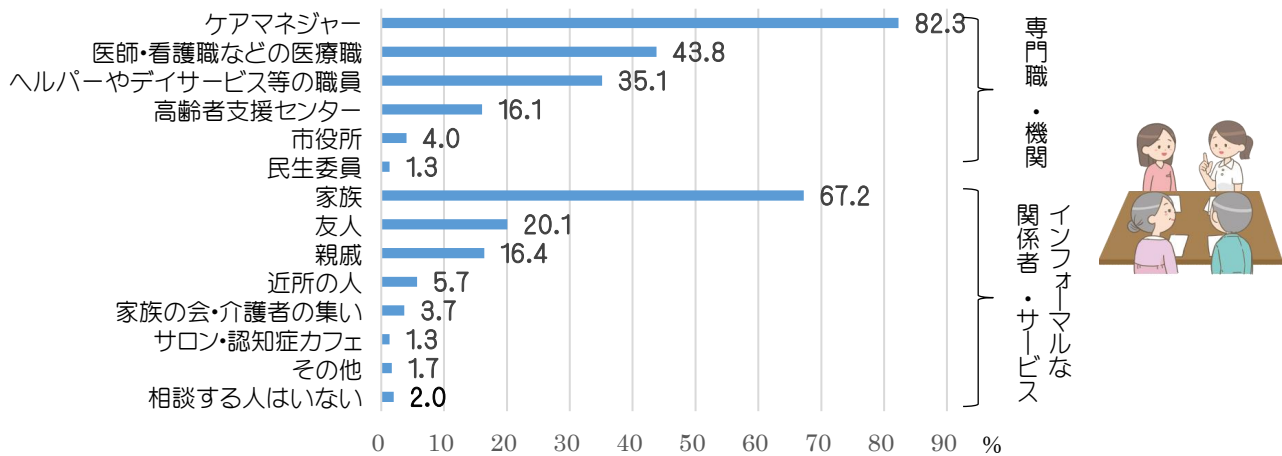
●介護の代替え



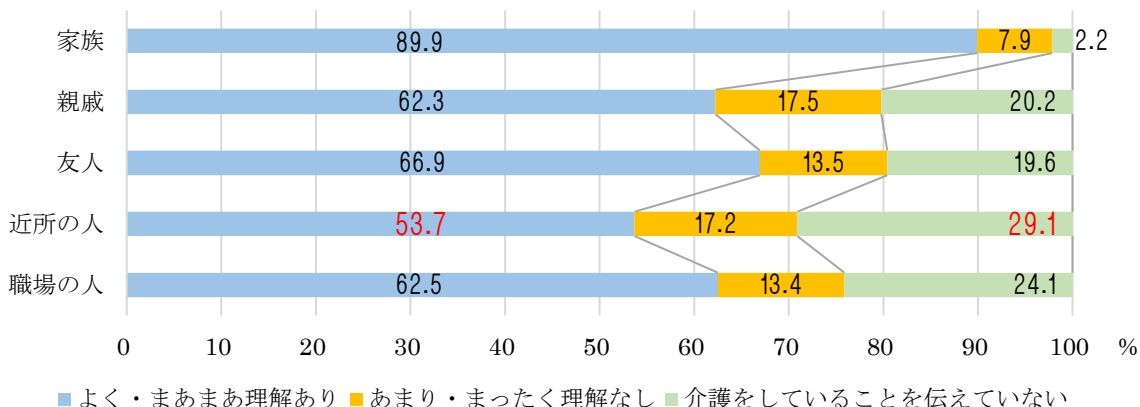
- 8割以上が行っている介護は、服薬、金銭管理などであった。食事摂取、排泄、保清などのADL（日常生活動作）の介護を行っているのは約半数であった。
- 介護者10人中3.5人が1日6時間以上、うち2人が12時間以上介護を行っていた。
- 以上から、家族介護者は日々、介護に追われていることが推測される。
- 介護者10人のうち3.5人は介護を代わってくれる人がいない状況である。
- 介護の代替者がいる場合においても、できるだけ代わってもらわないように、介護者は介護を背負っている様子が伺える。

介護者に対するサポート・理解

●相談相手



●介護に対する周囲の理解



- 家族介護者はケアマネジャー、医療・介護の専門職に相談することが多かった。
- 一方、家族以外のインフォーマルな関係者に相談することは少なかった。特に、近所の人、家族会・介護者の集い、サロン・カフェでの相談はいずれも1割に満たなかった。同じ経験をしている当事者と情報交換や相談できる機会の必要性が示唆された。
- 介護者は家族から介護に対する理解が得られていた。一方、近隣から理解されていると感じている介護者は約半数と最も少なかった。また、近所の人に介護をしていることを伝えていないのは10人中約3人と最も多かった。
- 以上から、町田市は公的サービスが家族介護者をしっかり支えていると考えられる。しかし、近隣などのインフォーマルサポートが脆弱であることが示唆された。認知症にやさしいまちづくりを推進していく上で、普段からの近所付き合いや町内会などの地域との関わり、認知症や介護に対する地域住民の理解促進が課題であることが示唆された。

介護負担感と必要な介護者支援

介護負担感とは、Zarit 介護負担感尺度短縮版（下記参照）を使用して測定した。Zarit 介護負担感尺度短縮版は 8 つの質問項目から構成されており、合計得点は 0～32 点、得点が高いほど介護負担感が高いことを示す。

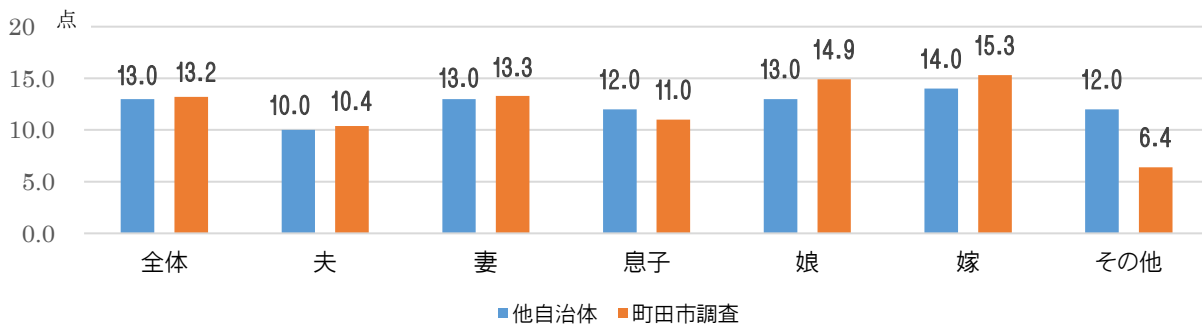
<質問項目例>

介護があるので家族や友人とつきあいづらくなっていると思いますか。

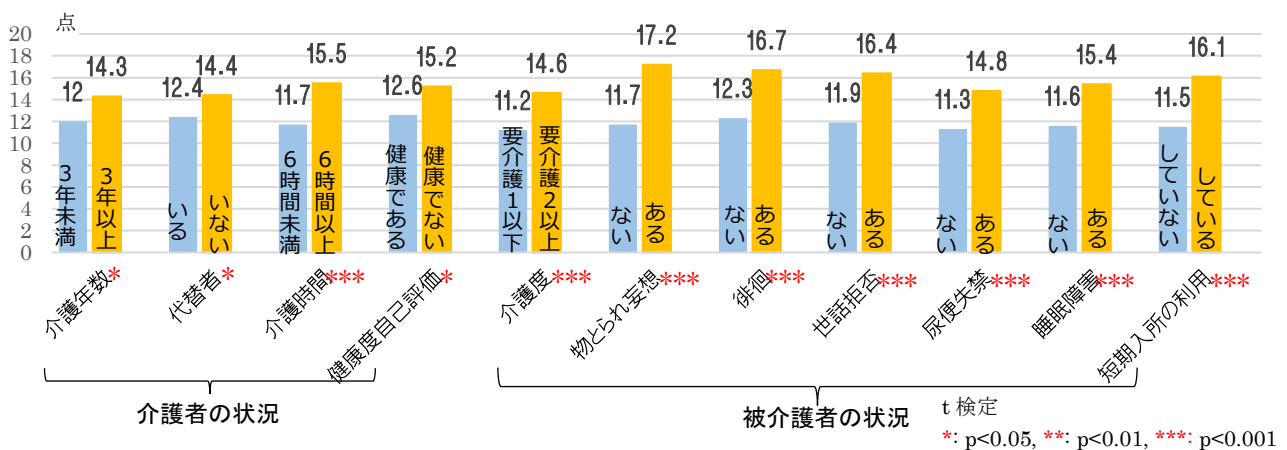
介護を誰かにまかせてしまいたいと思うことがありますか。

「思わない」0 点、「たまに思う」1 点、「時々思う」2 点、「よく思う」3 点、「いつも思う」4 点

●他の自治体との介護負担感の比較

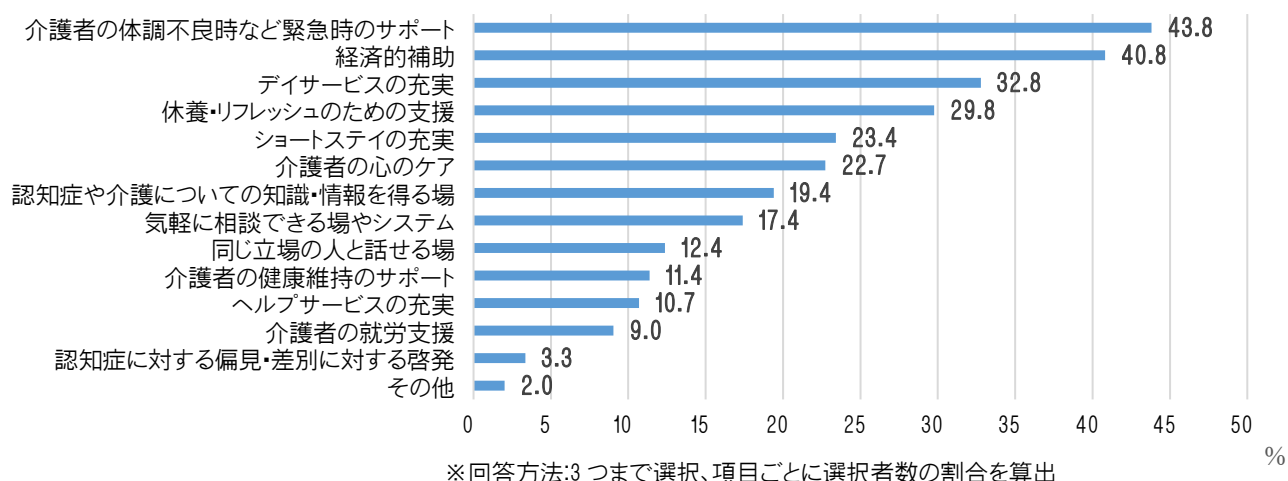


●介護負担感に関連している要因



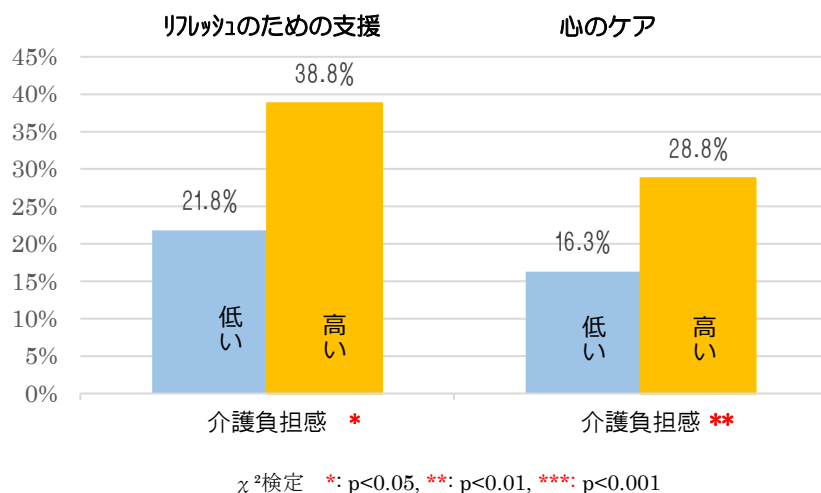
- ある自治体での大規模調査（回答 4,128 人）と比較すると、町田市は介護者が娘や嫁の場合、介護負担感が高い傾向が示唆された。
- 介護負担感と関連していた介護者要因は、介護年数・時間が長い、代替え者がいない、健康度自己評価が低いであった。一方、被介護者要因は、介護度が高い、物とられ妄想や徘徊、失禁、睡眠障害であった。
- 介護負担感が高い介護者は短期入所を利用し、レスパイト（休息）をはかっていると推察される。

●必要な家族介護者支援



- 家族介護者の生活支援として、介護者の体調不良時などの緊急時のサポート、経済的補助、デイサービスの充実が求められていた。
- 家族介護者の心身の健康、介護に役立つ支援として、休養・リフレッシュのための支援、心のケア、知識・情報を得る場、気軽に相談できるシステム、同じ立場の人と話せる場が求められていた。

●介護負担感の程度別にみた必要な家族介護者支援



- 介護負担感が高い人は精神的ケア(リフレッシュのための支援、心のケア)を必要としていた。

web サイトのご案内

町田市認知症友の会ホームページでは、調査結果、調査結果報告会、意見交換会などのイベント情報を掲載していきます。

[http:// dtomo.org](http://dtomo.org)

町田市認知症友の会

検 索



町田市認知症友の会では、「認知症のご本人/ご家族と支援者の交流会」を2ヶ月に1回開催しています。詳細は町田市認知症友の会ホームページをご覧ください。

関連ホームページのご紹介

<町田市>

- 町田市ホームページ 高齢者のための福祉

<http://www.city.machida.tokyo.jp/iryo/old/index.html>

- 町田市高齢者支援センター（地域包括支援センター）

http://www.city.machida.tokyo.jp/smph/iryo/old/shiminnokatae/mijikanasodan/koureisha_shien_center.html

- 町田市あんしん相談室

<https://www.city.machida.tokyo.jp/iryo/old/shiminnokatae/mijikanasodan/anshinsodanshitu.html>

- 町田市内の認知症カフェ

https://www.city.machida.tokyo.jp/iryo/old/shiminnokatae/ninchishojoho/2018_dcafe.html

<認知症関係>

- 認知症の人と家族の会

<http://www.alzheimer.or.jp>

- 認知症フレンドシップクラブ

<https://www.facebook.com/dfc.japan>

- 認知症 ONLINE

<http://ninchisho-online.com/archives/category/news/>

- facebook 認知症ねっと

<https://www.facebook.com/ninchishoinfo?ref=profile>



調査結果報告会

ぜひご参加ください。

◆日時:2020年3月9日(月) 14:00～16:00 受付開始13:30

◆場所:町田市民ホール 第4会議室

◆内容:調査結果報告、意見交換

◆参加申し込み: 3月2日(月)までにお申し込み下さい。

①右記QRコードから

②FAX:0267-68-6687 (下記様式をお使い下さい。)

③当日参加OK! (準備の関係上、できるだけお申込みください。)



本プロジェクトは、家族介護者、一般住民、支援者、研究者がいっしょに必要な支援を話し合い、事業の企画、実施、評価までを協働することを通して、当事者と専門家との協働による認知症高齢者とその家族にやさしい地域社会づくりを目指しています。

調査結果報告会後には、認知症の人の家族介護者(経験者)・地域住民・専門家の有志による家族介護者支援の検討を行い、2020年度には、家族介護者支援の準備・実施をする予定です。

＜お問い合わせ＞

●認知症になっても住みよいまちづくりプロジェクト事務局 佐藤、川口

Eメール:d.care.machi.project@gmail.com FAX:0267-68-6687 TEL:0267-68-6680

住所:〒385-0022 長野県佐久市岩村田2384 佐久大学看護学部

●町田市認知症友の会 会長 井上美恵子 町田市認知症友の会ホームページ

＜FAX 申し込み＞.....

認知症になっても住みよいまちづくりプロジェクト事務局 佐藤、川口 行 0267-68-6687

お名前	連絡先 (電話番号)	—	—
いずれか1つ にチェック	☐ 認知症の人の家族介護者(経験者含む) ☐ 家族・親戚に認知症の人がいる(介護はしていない) ☐ 認知症サポーター等のボランティア ☐ 一般市民 ☐ 支援者・関係者 ☐ その他		